

林業普及現地情報
2016-7号（通算294号）
平成28年7月15日
遠野農林振興センター
記述者 伊東茂敏

松くい虫被害木判定等現地研修会の開催

1 はじめに

遠野農林振興センターでは、今年度も引き続き林業関係者の技術向上を目的として、遠野地区林業技術研修会を開催しています。

今回の研修は、会計実地検査でも指導があった松くい虫被害対策に着目し、平成28年6月27日（月）に遠野市宮守地区を研修地とし、県、遠野市、森林組合・松くい虫等被害防除監視員外18名の参加のもと開催しました。

2 研修会の目的

今回の研修の肝は、松くい虫被害量の増大により遠野市内の全量駆除が難しくなっていることから、伐倒駆除の優先順位基準の認識と適時・適切な松くい虫被害木の駆除にあります。このことから、松くい虫等被害防除監視員4名の担当する現地に赴き被害木の状況把握について、参加者全員が目線を揃えることを目的に研修を実施しました。



現地研修

3 研修の内容

岩手県林業技術センターの高橋上席専門

研究員と当センターの佐藤主任主査を講師として、マツノマダラカミキリの寄生の可能性のある針葉変色木について、各現地において、伐採優先順位基準のどの区分になるか参加者全員で意見交換を行いました。

現地研修会では、マツノマダラカミキリの寄生の可能性の判定について、松くい虫防除事業マニュアルの区分を正確に理解する現地研修の必要性を感じました。



講師による説明

4 おわりに

今回の研修会を振り返り、松くい虫等被害防除監視員はマツノマダラカミキリ寄生確認調査書の摘要欄に被害木の優先順位を記入することとしました。

また、遠野市では秋以降の駆除から、適時・適切な駆除事業による被害の拡大阻止に加え、被害の蔓延地域は樹種転換を促進するなどきめ細かな取り組みを実施することとしましたので、センターでは技術的支援を継続していくこととしています。